

## 事業承継は早めの対策を

### ◆事業承継の現状

近年、休業業・解散による経済的損失がクローズアップされております。

2018年は全国で2万3026件の「休業業・解散」が発生し、倒産件数(8063件)の2.9倍となりました。岐阜県は373件で倒産件数(129件)の2.9倍とここ数年倒産件数の約3倍という高水準で推移、この状態が続くと地域経済の衰退に繋がりがかねません。

また、全国の後継者不在率66.5%で、60歳以上の不在率は48.7%、岐阜県の後継者不在率は67.6%で、60歳以上の不在率は48.1%となっております。

### ◆事業承継に対する意識

岐阜県では、平成29年度より事業承継ネットワーク構築事業が立ち上がり、各支援機関が一堂に事業承継診断等により経営者の「気づき」を促す取り組みがスタートしました。

なぜ、事業承継は、遅々として進まないのでしょうか。その主たる要因は、①現役意識が強く事業承継などまだ先のこと、②認識はしているが日々の経営で精一杯、③後継者がいなくてどうすればいいかわからないなど、事業承継問題を直視せず先送りしているケースが多いのが現状であります。まさに、「引き継げない」のではなく「引き継がない」のが実態ではないかとも言われております。

### ◆岐阜県事業引継ぎ支援センターの取り組み

私どもセンターは、国の委託事業として平成27年7月に設置され、公的機関として事業承継の相談に対応しております。「親族内承継」、「従業員・役員承継」に対しては承継の課題に対するアドバイスや事業承継計画の策定支援を、「第三者承継」に対してはM&A支援を行っております。

本号に岐阜県事業引継ぎ支援センターのご利用案内(裏面相談申込書)を同封いたしておりますので、お気軽にご相談願います。

岐阜県事業引継ぎ支援センター  
岐阜市神田町2-2 Tel058-214-2940

## 『奇跡のような事業承継でした』

相談者 東栄コーティング(株)前代表の長女 小林 さん



### 後継者問題について

創業者である父が50歳の若さで急逝し、長年母が社長を務めてきました。私と主人は社員として働いてきましたが、経営を継ぐ決心がつかず、母が高齢になるにつれてこの先どうしたらいいのかと押しつぶされそうでした。

### センターに相談したきっかけ

工場の稼働に不可欠な有資格社員が退職の意向を示してきました。このままでは事業が継続できませんし、新たに人を募集するにしても会社の先の事を考える時だと思いました。

長年後継者問題について悩み、インターネットなどで調べていた中で、岐阜に相談窓口があることを知って、臆にもすがの思いでセンターに電話をしたところ、担当の方がすぐに会社まで来て下さいました。ひと通りヒアリングをした後「きつと買い手は見つかりますよ」と言ってくれたことが、とても心強かったのを覚えています。

### 社員や取引先への説明

社員や、お世話になってる取引先には包み隠さず説明しました。事業継続に手を

### 事業譲渡後の、今

以前は廃業の文字が見え隠れし、社員のモチベーション低下に繋がっていたと思

尽くすがどうなるかはわからない、と。ありがたいことに取引先は事情を汲み温かい目で見守ってくれたり、社員も誰一人辞めず、これまで通り働き続けてくれました。

### 相談してから

『資格保有者の充足』『雇用の維持』この2つを条件に相手先を探して頂きました。

関心を示している会社が三重県にあると聞かされ、初めてセイワ工業の野見山社長とお会いした時は、驚くほどお若く、親しみやすい人柄に安心しました。ぬか喜びさせてはいけないので社員には話していませんでしたが、野見山社長が頻りに来訪し、社内を元気に挨拶して回られるので、良い方向に進んでいると皆分かっていたようです(笑)

実は一旦辞めた有資格社員が「あの人が社長になるのならまたやってみよう」と考え直してくれた。野見山さんも「資格の問題が解消され、状態が安定するなら」と、さらに当社とのことを前向きに考えて下さったようです。

ます。また、長期計画が立てられず設備投資も滞っていました。今は事業を続けられることになり、社員も明るい将来を描けるようになりました。

母は長年の重責から解放され、79歳でようやく隠居生活を楽しんでいます。私も肩の荷が下り、ホッとしています。

当社のケースは取引先・従業員の理解、コーディネーターの方の尽力、野見山社長とご縁に恵まれた「奇跡の事業承継」だと感じています。

### 同じ悩みを持つ事業者へのメッセージ

事業承継や廃業について自分なりに調べてきましたが、実際にセンターに相談して初めて知ることがたくさんありました。結果的に株式売却という方法を選択しましたが他にさまざまな方法があると学べた事は大きかったです。

自社にどのような道があるのか、メリット・デメリットを知ることが第一歩だと思います。同じように悩んでいらっしゃる皆さんに「一度相談してみてください」と伝えたいです。

# 「廃業しかない」 そう思い込んでいませんか？

現在、日本の中小企業の代表者の年齢分布は66歳が最も高い山になっており、高齢化が顕著に進んでいます。そして全体のおよそ半数以上が「後継者がいない」という現状も明らかとなっています。これまで当たり前であった親族による事業のバトンタッチが難しい現代。親族以外に引き継ぐ、という選択があります。あなたの大切な会社を、これからも同じように守ってくれる“誰か”を探してみませんか？



岐阜県事業引継ぎ支援センター  
プロジェクトマネージャー

子安史彦 氏

### 《事業引継ぎ事例》

2019年6月、東栄コーティング株式会社(岐阜市)は全株式を有限会社セイワ工業(桑名郡)へ売却。セイワ工業へと経営権を移譲し100%子会社として新たにスタートしました。

### 譲 渡

#### 東栄コーティング株式会社(岐阜県岐阜市)

1973年設立の亜鉛めっき加工会社。  
主に自動車部品のめっき加工を行う。  
自動車部品メーカーとの安定取引により黒字経営を維持。  
売上高 約2億円  
従業員数 16名



### 譲 受

#### 有限会社セイワ工業(三重県桑名郡)

1995年設立の溶接加工会社。  
大型構造物の溶接加工を行う。  
代表の野見山社長は、父から会社を承継後、新規取引先開拓や働き方改革を推し進め経営再建を実現した実績を持つ。  
売上高 約4億円  
従業員数 11名



全株式売却